

## 会議録

会議名	令和7年度（第1回）東松山市立市民病院運営委員会				
開催日時	令和7年11月27日（木）			開会	13時30分
				閉会	15時00分
開催場所	東松山市立市民病院 南館3階 会議室				
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) 令和6年度病院事業決算報告について (2) 市民病院経営強化プラン取組状況について (3) 市民病院経営強化プランの一部改訂について 4 その他 5 閉会				
公開・非公開の別	公開		傍聴者数	3人	
非公開の理由 (非公開の場合)					
委員出欠状況	委員長	小野寺 亘	出	委員	真下 美紀
	委員長代理	須田 清美	出	委員	武藤 正樹
	委員	荒井 和子	欠	委員	森田 恵子
	委員	奥村 一彦	出		
事務局	病院事業管理者 杉山 聰			病院総務課長 岡部 登	
	院長 野村 恒一			病院総務課副課長 千代田 章男	
	院長補佐 糸部 文子			医事課副課長 川辺 雅史	
	事務部長 野地 一彦			病院総務課主査 比留間 徹	
	事務部次長兼医事課長 小澤 秀明			病院総務課主事 大沼 恵	

次 第	顛 末
1 開 会	事務局 野地事務部長
2 挨 捶	杉山病院事業管理者
3 議 題	<p>東松山市立市民病院運営委員会条例第6条第1項の規定に基づき、小野寺委員長が議長となる。</p> <p>(小野寺委員長) 議事に入る前に、事務局から確認事項等があればお願ひします。</p> <p>○事務局からの確認事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議録の署名委員について</li> <li>・会議の公開の可否及び傍聴人の有無について</li> </ul> <p>(小野寺委員長) 署名委員については、須田委員と真下委員にお願いします。 会議の公開については、会議は原則公開され、本日の議題の中には非公開にすべき内容はないと思われますので、公開することとします。傍聴人は入室してください。</p> <p>(小野寺委員長) 議事に入ります。 議題（1）令和6年度病院事業決算報告について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局：千代田病院総務課副課長) 資料に基づいて説明</p> <p>(武藤委員) 泌尿器科の常勤医師が撤退した理由についてお伺いします。</p> <p>(事務局：野地事務部長) 泌尿器科の常勤医師は、これまで日本大学医学部附属板橋病院から常時2名派遣されていましたが、令和6年度以降、大学医局から人員が不足してい</p>

ることから、当院へ泌尿科医を派遣できないという話をいただいています。

(武藤委員)

今後、常勤医師の採用は泌尿器科を優先させるのですか。

(事務局：野地事務部長)

医師については、これから数年かけて順次確保していきたいと考えています。現在優先順位が高いのは泌尿器科の医師です。また、消化器外科及び循環器内科の医師の確保を考えています。

確保に当たっては、大学へお願いしてもすぐに派遣していただけない状況が続いているので、現在、埼玉県による医師確保のための支援事業を活用しながら大学医局にお願いをしている最中です。

(真下委員)

昨年度は8億円を超える赤字ということで、どこの病院も経営面で苦労されていることは分かりますが、市民病院も赤字額が増えたことについては残念に思いました。

病床数を増やした経緯について教えてください。

(杉山病院事業管理者)

私が当院に着任した当初は地域包括ケア病床を36床増床する予定でしたが、その後、埼玉県と交渉の上地域に不足する急性期病床を増やすこととなり、現在一般病床数は146床です。病床数を増やしたことや、新型コロナウイルス感染症以降患者さんの戻りが悪くなっていることが、病床利用率の低下に大きく影響しています。

(真下委員)

外来が増えないと入院も増えないと想いますので、医師の確保等を検討し外来患者数を増やすことで、入院患者数・病床利用率が増えていくと思います。

減価償却費は年間どのくらいありますか。

(事務局：岡部病院総務課長)

令和6年度における減価償却費は3億6,514万1,225円です。

(真下委員)

市民病院として欠損の補填はどのようにされますか。

(事務局：野地事務部長)

現金の残高については約6億円程度で推移していますが、今後も損失が続ければ現預金が目減りし資金ショートする可能性は大いにあります。市の

財政部局と協議し、現在約5億円の一般会計からの繰入金を投入してもらっていますが、増額をお願いしている最中です。しかし東松山市自体の財政状況も厳しい状況ですので、要望した額を繰り入れるのは難しいと思います。繰入金の増額がかなわなかった場合は、一般会計からの資金繰りや金融機関などからの借入れなどにより運転資金を確保する必要があります。

(真下委員)

医業収益を上げて、コスト管理を厳しく見ることにより、赤字を減らし黒字に転換できるよう医業経営を行っていただきたいと思います。

(森田委員)

病床利用率の低下については、泌尿器科の医師の確保ができなかつたことが大きく影響しているのでしょうか。

また、資料1の5ページに「地域ニーズに合わせた病院機能の再編」とありますが、地域の皆さんから泌尿器科の入院が困難となったことに対して意見があるのでしょうか。

(杉山病院事業管理者)

泌尿器科に関しては、今まで常勤医師を2名配置しており、入院患者のうち10名から20名は泌尿器科の患者で埋まっていました。病床利用率が低下したことに関して、泌尿器科の常勤医師がいなくなつたことの影響はかなり大きいものと考えています。年間の手術についても、今まで前立腺がんや膀胱腫瘍などの手術による収入も多くありましたが、現在は泌尿器科の手術件数がほぼ0件となつたため、収入の面に関しても影響が大きいものと考えています。

また、地域の方々からの泌尿器科に対する強い要望は直接聞いていませんが、泌尿器の手術ができないことは地域の泌尿器科の患者さんにとってはかなり影響が大きいと思います。

(須田委員長代理)

増床したベッドが埋まらない原因としては、患者数が減つたことによるここと又は手が回らなくて増えないことのどちらでしょうか。

(杉山病院事業管理者)

当院の傾向として、外来から入院する患者はそれほど多くありません。救急受入による入院患者は多く、そのうち70%から80%は75歳以上の高齢者です。病床利用率を上げるには救急を増やしていく必要があると考えます。

(須田委員長代理)

東松山医師会病院では1日当たりの入院患者数が160人台までいってますが、市民病院はその半分です。このことについて考えていかなければいけないと思います。

(奥村委員)

給与費対医業収益比率と材料費対医業収益比率を合計すると100%となるという説明がありましたが、今後どのくらいの比率まで抑えていきたいと考えていますか。

(杉山病院事業管理者)

今後、給与費対医業収益比率は70%弱から60%弱まで抑えたいと考えています。材料費は医療の急激な進歩により高額となっているため、現状から比率を抑えるのは難しいと考えています。

(小野寺委員長)

市からの繰入金について、総務省の繰入基準から積算されていると思いますが、現在の5億3,000万円からどのくらいまで増額できれば経営の安定につながりますか。

(事務局：野地事務部長)

現在の5億3,000万円に関しては繰入基準をだいぶ下回っています。実際に繰入基準を積み上げると約8億円となりますので、目安としては8億円程度と考えています。

(武藤委員)

令和7年4月からの病床利用率と赤字額について教えてください。

(事務局：川辺医事課副課長)

令和7年4月から9月までの病床利用率は、58.4%です。

(事務局：岡部病院総務課長)

当院の場合、4月に一般会計繰入金を調定し収益を計上しています。令和7年10月末までの損益は、約2億8,000万円の利益を計上していますが、令和7年度全体では令和6年度と同じような状況で、約8億円弱の赤字を見込んでいます。

(小野寺委員長)

次に、議題（2）市民病院経営強化プラン取組状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：小澤事務部次長兼医事課長) 資料に基づいて説明

(森田委員)

資料4の6ページ81番にホームページについて記載がありますが、市民病院ホームページの閲覧数は分かりますか。

また、82番に関して、市民病院市民公開講座の開催数、参加人数について教えてください。

(事務局：小澤事務部次長兼医事課長)

ホームページの閲覧数は手元に資料がないため把握しておりません。

外来の専門医の確認や入院の取扱いの確認など、ホームページの内容に関する問い合わせが多いことから、ご覧いただいている方は多いと思われます。

(野村院長)

市民公開講座は、毎回100名の募集でいずれも満席です。年4回程度実施しています。

(真下委員)

前回の会議で救急体制を充実させていきたいという話があり、令和6年度も救急の受入件数が増えていて実績を上げていると感じました。

現在、土・日曜日の体制はどのようになっていますか。

(杉山病院事業管理者)

土・日曜日も救急の受入れをしています。土曜日の午後については当院の常勤医師が対応し、土曜日の夕方から月曜日の朝までは、救急専門の医師が当直を行っています。

(真下委員)

資料4の5ページ62番で記載のあるプロパー職員とはどのような定義で使われていますか。

(事務局：野地事務部長)

プロパー職員は病院で独自に採用する職員です。事務職では、病院が採用している職員と、市が採用し市民病院に出向している職員がいます。

病院事務は専門的な知識を必要とするため、市の行政職が短期間で入れ替わって人事異動すると専門的な領域でのスキル発揮が難しいこともあります。現在プロパー職員の採用を進めています。

(奥村委員)

健康診断について、企業健診を増やすためにどのような取組をされていますか。

また、訪問看護ステーションについて、東松山市社会福祉協議会は老人保健施設を運営していますので、連携を密にさせていただければと思います。居宅介護支援事業所との連携を進めることで訪問看護ステーションの利用活性化につながると思います。

(事務局：野地事務部長)

令和7年1月に健診部門の常勤医師を1名採用しています。また、健診のメニューを増やしていますので、現在契約している企業や仲介会社を通して契約している企業へPRしています。また、市民病院ホームページにおいても、健診や人間ドック等のPRを行っています。

(奥村委員)

人間ドック受診者が売店のサービスを受けられるといったメリットがあるので、PRするとよいと思います。

(小野寺委員長)

次に、議題（3）市民病院経営強化プランの一部改訂について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：岡部病院総務課長) 資料に基づいて説明

(須田委員長代理)

脳神経外科については、市民から良い評判を聞いています。泌尿器科だけでなく、消化器外科など外科系も充実していただくことはできますか。

(杉山病院事業管理者)

今年度、耳鼻咽喉科に1名常勤医師を採用し、患者は増えて手術も行っています。

外科は常勤職員のうち1名が退職になり、現在1名です。入院患者を常に10名弱持っていて、ヘルニアなど腹腔鏡手術を最近行っています。外科医はあと1名程度常勤医師が必要と考えています。

脳神経外科は、現在大学病院から派遣されている医師が中心になって対応しているところです。

整形外科に関しては日本大学から3名の医師に来てもらっています。整形外科は非常に入院患者が多く、手術件数も多いことから、病院の経営にとってはありがたい存在であると思っています。

(武藤委員)

経営強化プランの9ページ 病床稼働率について、7対1から10対1にするのはよいと思います。これをさらに進めて、約150床のうち50床を一般病床にして、残り100床を地域包括ケア病床、あるいは地域包

括医療病棟にすることで病床稼働率は上がりますが、このような議論はされていますか。

(杉山病院事業管理者)

現在、経営状況が非常に厳しい状況になっていますので、今後の経営に關してはあらゆる選択肢を排除しない考えです。ゼロベースから考えることです。武藤先生の貴重なご意見を含め種々の選択肢があり、今後の検討課題であると考えています。

(須田委員長代理)

整形外科の骨折の後の骨粗しき状の治療について、比企地区で骨折後の骨粗しき状を一般の病院に回していただきたいという話について、1人でも多くの患者を診ていただいた方が整形外科の先生にとって負担が減ると思いますので、東松山医師会と市民病院で連携していくことについて考えていただきたいと思います。

(森田委員)

経営強化プランの2ページに記載の専門外来について、高齢化に伴い物忘れ、頭痛外来、補聴器外来などをアピールしていくとさらに外来患者の確保につながると思います。

また、補聴器外来という名称だと補聴器のみというふうに思うので、「聞こえと補聴器」のように標記をするとよいと思います。

(杉山病院事業管理者)

標記については耳鼻咽喉科の医師と相談し考えたいと思います。

(真下委員)

今回の資料から経営が厳しい状況であるということが分かりました。市民病院が地域医療としての役割を果たしつつ、医療の質を落とさないよう、民間と比べるとどうしても公立病院は無駄な費用や管理が甘くなるところがあると思いますので、その辺を厳しく見ていただいて、赤字幅を毎年少しずつでも減少させることにより、持続可能な市民病院であってほしいと思います。

(杉山病院事業管理者)

診療報酬改定が来年春にあります、一部の意見は、改定率10%ぐらいにしてほしいという意見もあるようです。高市政権になってその辺がどうなるのかわかりませんが、本当に10%になれば市民病院の経営状況は少々改善すると思っています。

ただ一般的に考えてそこは厳しいと思いますので、そうすると先程事務部長が言いましたように、一般会計の繰入金を増やすなどしてなんとか繋

	<p>いでいければと思います。</p> <p>市民病院は市民の方にとっては必要不可欠な病院と思っています。私もここに来てもう7年経ちますけれど、頑張って持続・継続していきたいということでおいろいろ行つきましたが、あと数年この状況が続くと本当に経営が危ないと思っています。</p> <p>先が見通せない状況でございますが、できる限りの努力はしたいと思います。</p>
4 その他	<p>(小野寺委員長)</p> <p>その他について、事務局から何かありますか。</p> <p>(事務局：野地事務部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の運営委員会の開催について</li> <li>・ 委員の任期について</li> </ul>
5 閉会	事務局 野地事務部長

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和 7年12月25日 署名委員 須田 清美

署名委員 真下 美紀